

学校評価アンケート結果を受けての考察（R4）

（1）確かな学力の向上

「集中してまじめに勉強している」と答えた児童の割合が9割近くとなり、授業において学習に取り組む態度は身に付いていると考えられます。「コンピュータやタブレットを使うのは勉強に役立つ」と回答した児童は9割を超えており、ICT活用について意欲の高まりがうかがえました。今後、授業等で活用の機会をさらに増やし、家庭とも連携をしながら、効果的に活用できる力を高めていきたいと考えています。

一方で、「自分の考えをうまく伝える」と肯定的に回答した児童の割合は7割程度、保護者では7割を下回っており、思考力・判断力・表現力等の育成に課題が見られました。今後も話し方・聞き方の指導に継続して取り組むとともに、ペア・グループでの言語活動を充実させていく必要があると考えます。

また、家庭学習に関しては、児童、保護者ともに肯定的な回答が8割を下回っています。「できるだけ本や新聞を読むようにしている」と回答した児童は6割を下回っており、家庭学習の習慣化に課題があることがうかがえます。学校で学んだことを家庭学習につなげられるよう、学校教育の中で自主学習や読書の時間を充実させ、主体的に学びに向かう姿勢を育むための教育活動を強化していきたいと思えます。

（2）特別支援教育の充実

「学校は、保護者や子どもが相談しやすいよう努力している」の項目に肯定的に回答した保護者の割合が低いという結果が見られました。保護者の方に児童への支援や指導状況が十分に認識されていない可能性があったのではないかと考えます。また、保護者の方や児童のニーズも多種多様化し、保護者の方が求める支援体制に学校が十分に対応しきれていなかったのかもしれない。

そこで、今後は、学級担任と共に特別支援教育コーディネーターが窓口となり、学校全体で相談を受けられるような体制にし、必要があれば、専門機関につなぐなどして、相談しやすい環境作りに努めたいと思えます。また、入学説明会で行っている特別支援学級についての説明を継続して行うとともに、ホームページなどを活用し、特別支援学級での取組がより分かりやすくなるよう改善を行っていきます。

（3）人権教育の徹底

保護者アンケートにおいて「学校は、豊かな心と人権尊重の心が育つよう努力している」、「私の子どもは、楽しんで学校に通っている」という問いに対して肯定的な回答を9割以上得ることができました。

児童アンケートでは、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目で「とてもそう思う」と回答した児童が9割程度いました。「だいたいそう思う」を加えると全員です。しかし、学校生活の様子を見ると、自分の意見を通そうとして相手を傷つける言動をとったり、外見や能力に関することで友達がいやがる発言をしたりする場面が見られることがあります。友達のことを思いやり仲良くすることが大切であると理解はしていても、自分の思いを上手く伝えることができなかったり、行動に移したりすることが難しい場面もあると考えられます。教職員一人一人が、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導に当たり、児童同士が良好な人間関係を築けるようにしていきたいと思えます。

児童アンケートの「自分にはよいところがある」の項目に対して、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせると2割を超えた回答がありました。自分の思いを十分伝えられなかったり、自分のめざす目標が高く、そこに到達していないと感嘆していたりしていると考えられます。これからも、基礎学力の定着を図り、自分の思いをしっかりと伝え合えることにより自尊感情を育んでいきたいです。

本校では、これからも伝え合い、つながっていく「なかまの像」を中心としたなかまづくりに取り組み、各学年で計画的に人権学習の授業を実践していきます。学校における人権教育を充実させるとともに、学校行事への参加呼びかけや啓発を積極的に行い、家庭や地域と連携しながら人権教育が推進できるように工夫していきたいと思えます。

(4) 道徳教育・生徒指導の充実

「あいさつができる」と答えた児童は8割程度、保護者も9割以上から肯定的な回答が得られました。「人が困っているときには、進んで助けている」「友達と協力するのは楽しい」についても、児童の肯定的な回答が9割を超えていることから、望ましい人間関係を形成できつつあると考えられます。

「チャイムの合図を守れている」と回答した児童が9割を超えているのに対し、「時間やルールを守れている」と回答した保護者・教職員はともに8割弱となっていることから、様々な面で時間やルールを大切にできる規範意識を育むことが必要です。SNSやゲーム、タブレットでの学習場面も増えていることから、学校と保護者で情報を共有しながら児童自身がルールの必要性を認識し、守ることの大切さや良さを実感できるよう働きかけていきます。

(5) 体力の向上と健康の保持増進

「進んで、外で遊んだりスポーツをしたりして体を鍛えている」の項目では肯定的な回答をした割合が高く、児童の運動へ親しむ意欲は上がっているように感じます。今年度は、蜜を避けるため、中学年を対象とした体力作り教室はできませんでした。しかし、市の体操発表会、県の水泳記録会、市・県の陸上記録会が開催され、5年生以上の児童は目標を持って放課後の活動に取り組むことができました。今後も教育活動を通して体力向上をめざして取り組んでいきたいと思ひます。

健康面では、手洗い・うがい・マスク着用について学級担任や養護教諭が指導し、新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策につながっています。継続的な指導により、児童自ら基本的な感染症対策を踏まえた行動がとれるようになってきました。また、毎週的生活点検の実施や児童委員会を中心とした集会の開催により、規則正しい生活を送ろうという意識の向上につながっています。生活習慣では、就寝時刻が遅かったり、メディア機器使用時間が長かったりする児童もおり、今後ともご家庭と連携して取り組んでいきたいと思ひます。

(6) 安全教育の徹底

「交通マナー（右側通行、一列で歩くなど）を守っている」に9割の児童が肯定的に回答しています。本校の朝夕の通学風景を見ていると、道路横断中に停止してくれた車のドライバーに対し会釈をし、お礼の態度を示す事ができる等、良い習慣が身につけてきています。このような行動が交通事故の未然防止へとつながっています。引き続き継続できるように指導していきます。今後も、地域・家庭・学校や関係機関との連携をとりながら安全教育の充実を図っていきます。

施設・設備面においては、南庭遊具の滑り台とブランコの修繕を行い、子どもたちが安全に使用できるようになりました。これからも市教委と情報を共有し、必要な予算の要望を実施したいと思ひます。